

社会教育実習事例データベース構築の取組と活用の展望

社会教育実習支援ネットワーク事務局長 出川真也

はじめに

2020年の社会教育主事課程の改定により、大学等に設置される社会教育主事養成課程では、社会教育実習が必修化されることとなる。また修了者には多様な分野領域での学習活動を通じた活躍が期待される「社会教育士」の称号が付与されることになる。このことを受けて、社養協では、昨年2018年より社会教育実習支援ネットワークを構想し、その活動を開始している。

当ネットワークでは、社会教育実習とは、単なるカリキュラム上の問題を超えて、教育研究機関と実践現場とが直接的な結びつきと相互作用を起こして、両者に新たな知見や価値と意義をもたらす可能性をもった社会的営みだと捉えている。

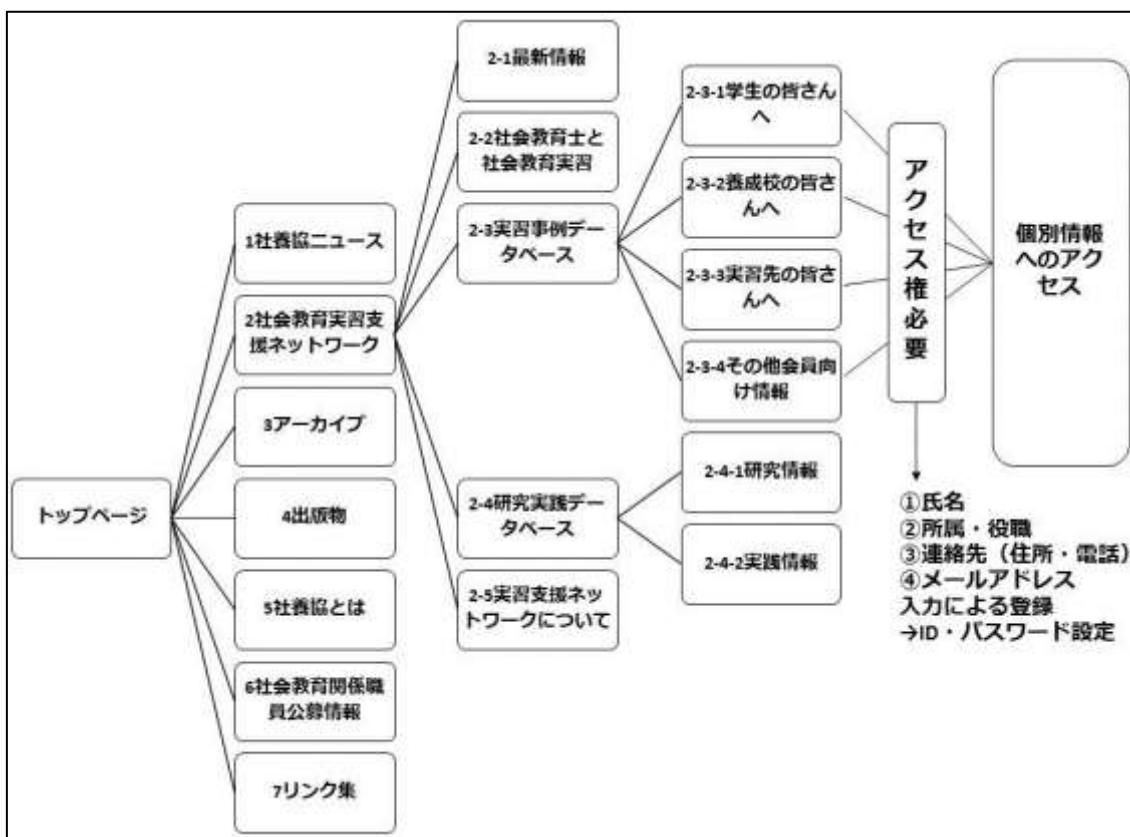
以上のことから、当ネットワークでは、各養成校の「社会教育実習」事例を収集し、学生・養成関係校や実習先施設・団体はもちろんのこと、養成人材の将来の多様な採用先や業界等も含めて情報交流を図るためのデータベースの構築を進めている。

1. ウェブサイトとデータベースシステムの概要

現在(2019年9月時点)、データベースは当ネットワークの仮サイトにおいて、実習事例のタイトル目次のみが掲載されている状況となっている。近々、社養協ウェブサイトのリニューアルに合わせて設定される新システムでは、会員登録を行うことによって、事例の詳細内容まで閲覧することができるようになる(図表1)。

不特定多数の閲覧者が単に一方的に事例を参照するだけでなく、ユーザー登録された会員閲覧者と会員掲載者が相互にやりとりして、実践に向けた知見を高めるための場となっていればと考えているところである。

※新ウェブサイトは2020年1月に公開された。<https://shayosei.org/>



図表1 社養協新ウェブサイトのツリー構造

2. データベースに格納される事例内容構成

社養協ウェブサイトに格納される社会教育実習支援ネットワークのデータベース構成は以下のとおりであり、閲覧者の属性に配慮した分類項目によって掲載している。

(1) 実習事例データベース（会員のみ限定）

1) 学生の皆さんへ

実習事例を実習先・内容別に掲載。

- ①教育委員会事務局
- ②教育委員会事務局以外の行政組織
- ③社会教育・生涯学習・福祉施設等
- ④学校教育機関
- ⑤NPO・ボランティア団体
- ⑥企業・事業体
- ⑦その他（①～⑥を組み合わせた連携活動等）

2) 養成校の皆さんへ

実習事例を形態（期間等）別に掲載。

- ①一定期間にわたり日勤し実施
 - ②宿泊形態により短期間で実施
 - ③数時間～半日程度の実習を長期にかけて実施
 - ④その他の形態で実施
- 3) 実習先・活用先の皆さんへ
実習事例を方法別に掲載。
- ①見学
 - ②参加・体験
 - ③プロジェクト
 - ④その他
- 4) その他会員向け情報
実習を中心とした活動や研究・研修会の知見や技術情報を掲載

(2) 研究実践データベース（オープンアクセス）

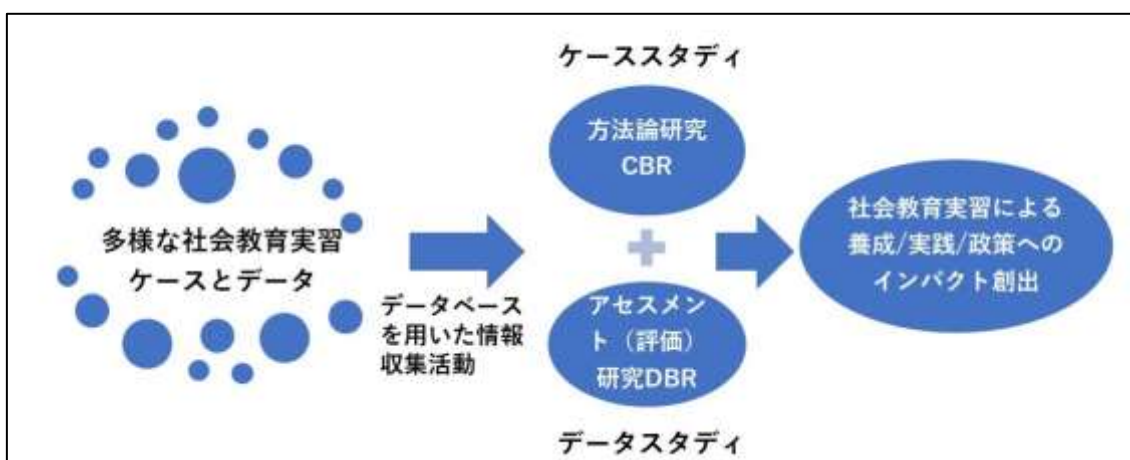
- 1) 研究情報
実習を題材とした研究活動についての情報を掲載
- 2) 実践情報
実習を題材とした実践活動についての情報を掲載

(3) 実習事例データベースの個別事例情報

会員のみがアクセスできる実習事例データベース内の個別事例情報は以下の項目で構成される予定である（図表2）。

①実習先、②実習テーマ、③背景・目的・概要、④分野、⑤形態、⑥手法、⑦プログラム（事前・事中・事後）、⑧方法論上の特記事項、⑨成果（学生・受入先・その他）、⑩実施イメージ（図表）、⑪資料・写真等、⑫実施主体関係情報

能となることが考えられる。方法論やアセスメント（評価）分野における社会教育実践上の新たな研究地平を拓くことができるのではないかと期待される（図表3）。



図表3 実習支援ネットワークデータベースを用いた研究イメージ

おわりに

社会教育実践研究の最新の状況は現場にこそあるといえる。現場で取り組まれる「社会教育実習」はその意味で、まさに、学生はもちろんのこと、教員・研究者や実習施設職員・団体もまた現場の最新状況に触れ、あるいはふりかえり、自らの研究・教育や実践の力量をブラッシュアップし高めていく絶好の機会を提供するものであると言えよう。各関係者が実習で学び、学んだことをそれぞれが取り組む教育・研究・実践に還元することで、社会教育の現場をよりよくしていけるのではないだろうか。

このようなダイナミズムを生み出していくよすがとして、社会教育実習支援ネットワークとデータベースをご活用いただくとともに、システムの充実化にご支援ご協力を賜りたいと願っている。